

KOBUSHI



PICK UP

完全予約制 導入加速化へ

導入された市ご担当者様にインタビューしてきました！

CONTENTS

- 予約殺到！「利便性の高い総合健診」
- 私ならこう伝える「婦人科検診受診のススメ」
- 問診表からみる「婦人科検診いつ受けた？」
- 赤ちゃんの検査「拡大新生児スクリーニング」
- 広報活動の様子
- 乳がん検診・子宮がん検診GO!GO!キャンペーン



禾々たちはただひたすらに
あなたの健康を守りたい

当協会においても、他の検診と比べてみて婦人科検診の受診者は少ない傾向にありました。婦人科検診を受けない理由として、「検診を受けるのが面倒」、「忙しくて検診に行けない」、「受ける時間がない」といった理由がよく挙げられています。婦人科検診は受診できる医療機関が限られているため、受診できる医療機関を探すところから始まります。このことから、受診者を増やす鍵は利便性を高めた受診機会の提供であるといえます。

そこで、当協会では市町村の総合健診と同じタイミングで婦人科検診も受けられる仕組みを導入しました。この仕組みの最大のポイントは、**いつもの健診で婦人科検診まで同日に受診できる**ことです。1日で全ての検査を終えることができること、検診の内容によって何度も予約を取らなければならない手間がないため、受診者の皆様にとって利便性の高い健診スタイルとなっています。

婦人科検診をうけてほしい



限局：がんが原発臓器にとどまっている状態。
 領域：所属リンパ節または隣接臓器・組織に浸潤している状態。
 遠隔：遠隔臓器・組織に転移している状態。

出典：「がんの統計 2021」
 公益財団法人がん研究振興財団

厚生労働省が行っている国民生活基礎調査では、全国の令和元年度（2019年度）の受診率は乳がん検診で47・4%、子宮頸がん検診では43・7%と、国が目標とする受診率60%には届いていません。

一方、福島の受診率は乳がん検診が26・4%、子宮がん検診は25・2%と国民生活基礎調査の受診率を大きく下回っています。受診率が低いことは、がんの発見が遅れてしまう事例が多くなることを意味します。例えば、全国で検診において見つかるがんの発見率は、乳がんが0・31%、子宮がんが0・01%です。一見低い数字に見えますが、この数値を福島県内の受診状況に当てはめてみると、未受診者のうち子宮がんでは103人、乳がんでは911人のがんが見つかっていない可能性があります。2020年初めから新型コロナウイルス感染症が流行し、健康診断の受診控えが起こりました。国立がん研究センターが2021年度のがん登録データを集計した結果、多くのがん種が早期がんで見つかる割合が減少し、進行がんで見つかるケースが増えました。検診を受診しない人が増え、がんが進行して自覚症状が出てから医療機関を受診して発覚する事例が多いため、早期がんで見つけれなくなっているのです。

がんは早く見つければ、その分、治療にかかる体の負担が小さく済み、5年相対生存率も高くなります。（図表）症状がないうちから検診を受けることが大切です。

婦人科検診の現状



完全予約制 導入加速化へ

VOL.2

いわき市 × 保健衛生協会

好評をいただいている完全予約制、総合健診と婦人科検診の同時実施。実際に導入して下さった巡回健診はどのように変わったのか、受診者の声は、担当者の負担の変化はあるのか。完全予約制と総合健診と婦人科検診の同時実施を採用いただいているいわき市担当者様へインタビューを行いました。

NEW
利便性の高い総合健診
婦人科検診との
同時実施について



教えてくれたのは
いわき市 鈴木さん 佐藤さん



完全予約制導入のきっかけについて教えてください

令和3年度まで予約制としていない健診では、受付開始の数時間前から会場の前に行列ができるなど、健診までの待ち時間が長く、受診者に負担をかけてしまうという課題がありました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や災害などで急遽健診を中止せざるを得なくなった場合に受診者に連絡する手段がなく、当日受診者が会場に来てしまうといった問題もありました。そこで令和4年度からは、完全予約制を導入することで、健診会場での待ち時間短縮はもちろん、受診録や検査キットの事前送付による当日の負担軽減を図るほか、課題であった緊急時の対応も可能となり、総合的に市民サービス向上につなげることができました。加えて、電話予約時にはコールセンターにおいて、受診希望項目以外の対象項目についても積極的に受診勧奨を行うことで、受診率の向上に努めています。



住民の方の反応は いかがでしょうか？

総合健診と乳がん検診の組み合わせや、乳がん検診・子宮がん検診の組み合わせなど、同時実施できる日は、山間部など多少遠い場所での実施であっても、街中にお住まいの方がわざわざ山間部まで受診に行くケースも見られ、若い方だと特に「距離よりも1日ですべての健診が同時に受けられること」が最大のメリットになっていると実感しました。中でも特に、乳がん検診・子宮頸がん検診・総合健診同時実施日は、WEB予約であつという間に埋まってしまい、電話予約分が確保できないほどの反響がありました。来年度は電話予約分の予約枠を確保しておくなどの対策とともに、同時実施日を1日でも多く増やせればと思います。



総合健診と婦人科検診の 同時実施導入のきっかけ について教えてください



「女性が1日ですべてを受診できるように」と昨年度の議会で話題があがったこともあり、受診者の利便性向上を1番に考え、総合健診・婦人科検診の同時実施を導入しました。受診者からも、「一度で健診を済ませたいから一緒に受けられるのはありがたい。」という声をいただいています。



WEB予約について、 住民の方から問い合わせ などはありましたか？

完全予約制を導入し、電話とWEB両方での予約が可能になりました。予約状況を見ると、若い方は夜間、朝早くなるの時間にWEB予約をしている方も多く、電話する時間がとれない、電話をかけたくない、という方にとって、「24時間予約できる選択肢」が増えたことは最大の魅力で「健診をより身近に感じていただけるチャンス」になっていると感じています。

また、都合が悪くなったときに自分で変更することもできるので、その都度電話をするよりも柔軟な対応ができると感じます。



導入後、担当者様が感じる ご負担の変化などありましたか？

完全予約制導入前は、予約が必要な一部の健診で、受診者がはがきに希望日を記載し市に送付。希望日の中から日程を指定した上で確認書を返送し、受診いただく流れとしており、もし希望された日が埋まっていた場合には、市から受診者へ電話をかけ再調整しなければならず、作業に膨大な時間がかかっていました。しかし、完全予約制を導入したことで市が行う作業が少なくなり、健診業務にかかる負担が大幅に減ったことがメリットだと感じます。反対に、完全予約制となったことを知らない方がいたり、コールセンターではなく市に直接予約の電話をかけてこられる方もいるため、周知については今後も努力していきたいと思えます。また、WEBで予約した方が受診券を持たずに健診会場にいらっやることが多々あるため、周知の仕方を見直していきたいです。



受診勧奨などはどのようにされていますか？

年度当初に受診券を送付するほか、特定健診は外部業者に委託し、年度途中にもナッジ理論を活用した受診勧奨通知を送付しています。がん検診は40歳以降5歳さざみに受診券を送付し、職場でがん検診の機会がない人にも受けてほしいと思っています。また、どんな世代でも情報を受けられるように、広報紙、新聞、SNS、ホームページ等で「受診がはじまるタイミング」「9月の健康増進月間」にあわせて市での健診を紹介しています。乳がん検診、子宮頸がん検診では、無料クーポン送付とともに、未受診者へ再度受診勧奨を行っており、受診勧奨直後は例年受診が増える傾向にあります。また、子宮頸がん検診は20-30代に受けてほしいということで、市の乳幼児健診の際に保護者にチラシ配布も行っています。



POINT

受診者さんの不安や
負担を軽減します！

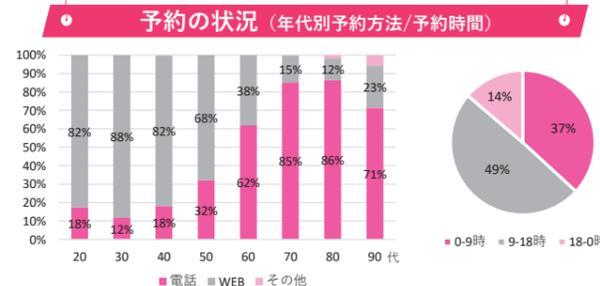
01 待ち時間をより少なく
予約制のため混雑を避けられます

02 WEB予約を追加
いつでもどこでも隙間時間に予約可能！

03 総合健診と婦人科検診の同時実施
一日で受診できる最大のメリット

30から50歳代の
78%がWEB予約！
若年層の受診者確保に繋がりました

WEB予約の促進のために
特定健診の受診券や受診勧奨通知に
QRを掲載しスマートフォン等から
予約サイトへつながるよう
取り組みを推進しています



いわき市では、すべての健診を同時に受診可能な医療機関は、常磐地区1施設、小名浜地区2施設、勿来地区1施設と少ないこともあり、令和5年度は、従来の総合健診と婦人科検診が同時に実施可能な「利便性の高い新しい総合健診」を導入しました。乳がん・子宮頸がんも同時実施として設定した9月の予約は開始後すぐ埋まるなど反響の大きさが伺えます。この「利便性の高い総合健診」の導入は、市場のニーズとマッチし、今後の健診事業のスタンダードとなり得るため、さらに拡大し対応していきたいと考えます。

市町村の 保健師さんへ

受診を促すこととともに、正しい検診の受け方を受診される方へ伝えてほしいと思います。

自覚症状がある人はすぐに病院へ。
自覚症状がない人は本当に大丈夫かどうか確認するための検診へ。

検診は自覚症状がない人を対象にしています。その理由として、撮影範囲の死角があげられます。もし自覚症状のある部分が、機械に挟めない部分だった場合、検診では撮影されないために、「異常なし」と結果で届いてしまう可能性があり、受診した方が病院へ行かなくなってしまう場合もあります。その人のために、自覚症状がある場合には、すぐに乳腺外科で精密検査をうけるよう促してください。過去に一方の乳房に違和感を感じ病院を受診したら、反対側に小さな乳がんを見つけたことがありました。乳がんは自分で見つけることのできる数少ないがんのひとつで、早期発見であれば、薬物療法が効くことが多いこと、治療法が確立されていることなどから、生存率が向上することが証明されています。



大事なあなたに検診を受けてほしい

当協会医師からのメッセージをお届けします

受診しなくてもいいかな…という方へ

「何歳まで子宮がん検診を受診すればいいですか」と聞かれることが多いのですが、70代以上で発症する方もいらっしゃいます。検診を受けなかったことで、卵巣腫瘍の発見が遅れたというケースもありますので、子宮がある間は検診を受けてほしいと思っています。

また、恥ずかしくて検診をためらうという若い方へは、お母さん、おばあちゃんから「一緒に受けよう」と誘っていただくとうれしいでしょう。親子で受診できるがん検診ですし、自治体を実施する検診では補助制度により、少ない自己負担で受けられますので、その点を伝えていただければと思います。



子宮がんについて
福島県保健衛生協会
巖 美希 先生

がん検診は自覚症状のない方が対象ですが、月経がない期間や閉経後の出血、下腹部の痛み、月経不順などがある場合は迷わず婦人科を受診しましょう。婦人科は女性の味方です。**大切なパートナーや家族、そして何よりあなた自身のために検診を受けてほしいと伝えてください。**

仕事、家事、育児と 忙しい方へ

乳がんを発症しやすい40代から60代は社会的に重要な役割を果たす年齢です。職場では仕事の中心であり、コミュニティではまとめ役であり、家庭でも最も頼りにされている忙しい時代だと思います。**時間がないからこそ「時間を作って」検診だけでも受けてほしい。**忙しいからといって検診を受けず、がんを進行させるよりも、検診を受けて早期発見をするほうが、治療期間を短縮することができます。

がんサバイバーといわれる、がんと闘い、仕事に復帰している人が県内にもたくさんいらっしゃいます。あなたの周りにも、普段気が付かないだけで、サバイバーの方がいらっしゃるかもしれません。

「マンモグラフィは痛い」確かに痛みを感じる方は一定数いらっしゃいますが、非常に個人差があり、思ったほどではなかった、痛いけど我慢できるくらいだったという方もいらっしゃいます。ぜひ周りの方へ「どのくらい痛かった？」と聞いていただき、怖がらずに受診してほしいと思います。



乳がんについて
福島県保健衛生協会
相楽 浩哉 先生

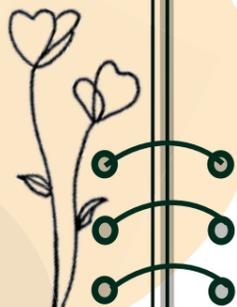
あなたには検診を。 娘さんにはワクチンを。

子宮頸がんの初期はほとんど症状がなく、自覚症状が出てから婦人科を受診した時にはかなり進行しているケースも少なくありません。20代から40代の罹患率が高く、放置すれば子宮を取らざるを得ず、こどもを持てなくなったり、小さなお子さんを残して死に至ったりすることもあります。しかし、本県の受診率は20~30%にとどまり、特に20代の受診者が少ないのが現状です。

子宮頸がん検診は、直接細胞を採取するため正診率が高く、定期的に受診することでほぼ100%の確率で発見できます。早期発見できれば、手術やレーザー治療ができ、子宮を温存できる可能性も高まるため体への負担が少なくすみます。

子宮頸がんの主な原因であるヒトパピローマウイルス（HPV）は性交経験がある女性の8割近くが一生涯のうち一度は感染するといわれています。

性交渉開始前にHPVワクチン接種でほぼ感染を防ぐこともできますので、娘さんにはワクチンをお母さんは検診を受けていただければと思います。



VOICE

予約方法は？

WEB TEL

取材をした方の85.7%がWEB予約！

婦人科検診と総合健診の同時実施はどうですか？

- 同時実施はメリットがあるから今日は遠くから来た。1日で終わるのは楽！40代
- 車で30分かかって、1日ですべて受けられるほうがいい！50代
- 複数日の予定を空けられず、過去に受診しないままになってしまったことがあった。1日だと楽で、今後も受けたいと思う！とても助かる。50代

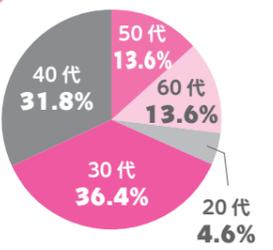
とにかく1日で済むことは便利！仕事をしながらだと複数日に分かれて検診を受けることが難しい。お子さんがいるとさらに難しいと思う。50代

令和5年9月24日、いわき市中央台公民館で行われた住民健診において、今年度から導入された利便性の高い総合健診（総合健診と婦人科検診の同時実施）の印象など、受診者さんの生の声を集めました。

- QRコードから簡単に予約できた。50代
- 夫がWEBで予約を取ってくれた。40代
- WEBだと予定表を見ながら自分の好きな時間に予約が取れる。30代

待ち時間もなくスムーズに受診できる。予約制になってから、休日に予定を組んで、夫婦二人で受診している。60代

取材した年代は？



今後も継続受診したい？
100%

子供を3人つれて病院に行くにくい。来年も同時に受診できるなら集団検診で受診したい。40代

- 集団検診に初めて来たが、会場も広く混んでいないし、今後も集団検診がいいと思った。30代
- 集団検診のほうが自己負担が少ないから来年も集団検診で受診したい。何回も受診に行くのは面倒だからすべて一緒に受診できるとありがたい。40代

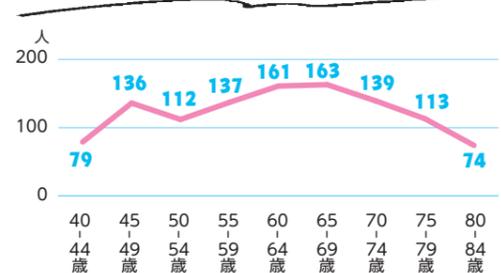
女性に1日で すべての健診を。



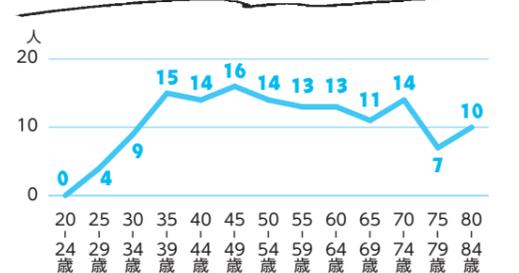
総合健診と婦人科検診を実際に導入した市町村の住民の方々からは、「病院まで行かず、近くの健診会場でも婦人科検診を受けることができたらいいな」という声が多く聞かれました。また、別の市町村では他の健診日よりも婦人科同時実施日の予約が先に埋まることから、婦人科検診を受けたいと思っている人が潜在的に多くいることがうかがえます。今まで受診していなかった方々が健診に来ることから、婦人科検診の同時実施は新規受診者確保の役割も担っています。

乳がんや子宮がんは、女性のライフスタイルに大きな影響を与えます。仕事や子育てで忙しくなる年代からがんの罹患率は急激に増加するため、対象年齢になった時から継続的に検診を受けることが大切です。健診を受けて疾病やがんの早期発見・早期治療につながる人を1人でも増やすため、当協会では受診者の皆様が検診を受けてよかったと思っていただけるような新しい仕組みを今後も構築していきます。

乳がん年齢別罹患患者数【福島県/2019年】



子宮頸がん年齢別罹患患者数【福島県/2019年】



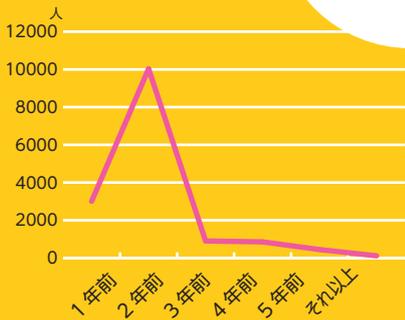
出典「全国がん登録 年齢階級別罹患患者数 都道府県別 性別（2019年）」厚生労働省

みんなの笑顔は健康から

私たちは県民の皆様がすべてのライフステージにおいて、健康で活力あふれる生活を送ることができるよう、様々な事業を展開しております

01 統集計

昨年度、乳がん検診を受けた方の問診票の結果を一部ご紹介します。「以前に乳がん検診を受けたことがある」方は94%で、多くの方が定期的に受診いただいていることがわかります。特に2年前に受診されている方が多く、がん検診で推奨されている期間といえます。



02 普及啓発

当協会では受診率向上事業として乳がん検診・子宮がん検診GO!GO!キャンペーンを実施しております。期間中に乳がん検診または子宮がん検診を受診し、はがき・WEBから応募いただくと抽選で140名の方に県産品が当たります。昨年度は県内1,918名の方から応募いただき、「キャンペーンが受診のきっかけになった」という声があがるなど、大変好評を得ました。

応募はこちら



第3期 乳がん検診・子宮がん検診 GO!GO! キャンペーン
乳がん検診・子宮がん検診を受けてプレゼントをGETしよう!
当選者140名様
乳がん検診・子宮がん検診を受けてプレゼントをGETしよう!
賞品：福島県産品を各県産品入賞品（公費）福島県保健衛生協会

- 1 高級お茶
- 2 福島県産品「いわてやまのぼたん」
- 3 白米（福島県産）
- 4 福島県産「いわてやまのぼたん」
- 5 福島県産「いわてやまのぼたん」
- 6 コールドブレッド
- 7 福島県産「いわてやまのぼたん」
- 8 まさごめ餅
- 9 スパイス入りの入賞品
- 10 福島県産品

乳がん検診
「乳がん検診」は、乳がんの早期発見に有効な検査です。乳がんは、早期発見・早期治療により、多くの女性が健康に生き延びることができます。検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能になります。検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能になります。検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能になります。

子宮がん検診
「子宮がん検診」は、子宮がんの早期発見に有効な検査です。子宮がんは、早期発見・早期治療により、多くの女性が健康に生き延びることができます。検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能になります。検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能になります。検診を受けることで、早期発見・早期治療が可能になります。

04 広報活動



先天性代謝異常等検査



拡大スクリーニング検査

- 原発性免疫不全症
- ライソゾーム病
- 脊髄性筋萎縮症
- 副腎白質ジストロフィー

詳しくは今後紹介いたします！

“婦人科検診をもっと近くに”

皆様に検診をより身近に感じていただくことを目的とする検診体験イベントや乳がんセルフチェック法の説明などを行っております。「検診車の内装にあたたかみがあった」「検診のイメージがよかった」「みんなに教えたい」など感想をいただきました。